

第8回

静岡県立大学・食品栄養科学部

## 明正大純 助教

### メダカ属魚類を用いた性決定遺伝子の進化機構の解明

生物の遺伝的多様性を生み出し、それらを維持するために有性生殖を行っている。性は遺伝または環境要因によって決まるが、脊椎動物の多くが遺伝的な性決定を用いている。遺伝性決定を担うのは性染色体上の性決定遺伝子であり、未分化生殖巣を卵巣または精巣方向に分化するかを決定する最初の遺伝子である。これまでに10以上の性決定遺伝子が同定されたことにより、その多様性が明らかになるとともに、「性決定遺伝子が交代する」ことが普遍的なシステムであることを示唆した。

本講演では、性決定遺伝子が頻繁に交代していると想定されていたメダカ属魚類において、複数の性決定遺伝子を同定することにより明らかになった、「性決定遺伝子の進化機構」について考察する。



*Oryzias latipes* (透明メダカ, Quintet系統); 手前左:オス, 右:メス

12月18日 (月) 16:30-18:00

琉球大学 亜熱帯島嶼科学拠点研究棟 3F 会議室

※ ご参加・聴講は自由です (事前申し込み不要)

皆様のご来聴を歓迎いたします。

お問い合わせ先：熱帯生物圏研究センター 矢口甫 [hjiroo@gmail.com](mailto:hjiroo@gmail.com)

主催：戦略的研究プロジェクトセンター ゲノミクス解析支援チーム